

【研究ノート】

英語で表現する力の育成を図る指導の工夫 —「イングリッシュ・シャワー」の効果的な活用—

姫路女学院中学校高等学校 今井 祥詠

1. はじめに

本校は令和3年度に新たに中学校を開設し、中高6年間の一貫教育をスタートさせた。本校中学校においては、開校年度より週に5時間の「英語」の授業に加え、「イングリッシュ・シャワー」と呼ぶ授業を週に1時間、開講している。「イングリッシュ・シャワー」は、英語での大量のインプットを与える授業であることはもちろん、生徒からのアウトプットを引き出すことも目的としており、小グループの生徒を1名あるいは2名の外国人教員と日本人教員が指導する体制で取り組んでいる。

本校英語科の指導目標は、使える英語力の育成である。6年間の一貫教育を通して、第3期教育基本振興計画（文部科学省：2018）においても目標の一つとして示されている「グローバルに活躍する人材の育成」をめざしている。特に中学校においては、海外への修学旅行など、英語による様々なコミュニケーションの機会を通して、同計画に示されている、中学校卒業段階でCEFRのA1相当レベル、文部科学省による各検定試験との対照表（文部科学省：2019）による英検換算で3級～準2級相当レベルの英語力をできる限り多くの生徒に確実に身につけさせたいと考えている。

そのために、授業では、「聞くこと」「話すこと」（発表・やりとり）「読むこと」「書くこと」の4技能5領域において、文法・語彙の知識と、学習した文法と語彙を活用する技能を確実に身に付けさせたうえで、実際のコミュニケーションを通して、自ら考え、判断し、表現する能力の習熟を図る言語活動を通して指導している。英語の授業の一環である「イングリッシュ・シャワー」においては、「話すこと」（特に「やりとり」と「書くこと」）に重点を置き、英語で表現する力の向上をめざしている。

2. 指導体制

本校中学校には、入学時点から英検準2級相当以上の英語力をもつ生徒も在籍しているため、英語科においては、「英語」、「イングリッシュ・シャワー」のどちらの授業においても習熟度別指導を行っている。「イングリッシュ・シャワー」では、1名の外国人教員に対して5～6名の生徒が学ぶレギュラー・グループと1名の外国人教員とマンツーマンで学ぶ機会があるアドバンスト・グループに分けて指導している。時間割上は、1クラスの「イングリッシュ・シャワー」の授業を複数の外国人教員と日本人教員が担当している形となっており、様々な教員とのコミュニケーションを通して学べるよう、毎週、担当する教員をローテーションして授業を行っている。

3. 指導内容

(1) 「英語」の授業内容との連携

「イングリッシュ・シャワー」においては、特別な教材は使用せず、検定教科書を用いて指導してい

る「英語」の授業と内容を連携させる形で授業計画を立て、指導している。主な学習活動には、①教科書で学習した文法や語彙をできるだけたくさん聞き、たくさん話す言語活動、②「英語」の授業で取り組んだ教科書のスピーキング活動を発展させた言語活動、③「英語」の授業で学習した教科書の題材を用いた言語活動が挙げられる。レギュラー、アドバンストの両グループともに、①～③の言語活動に取り組むが、レギュラー・グループでは、教科書内容の習熟度を深めるために①②を、アドバンスト・グループでは、より発展的で自由なコミュニケーションの機会となるよう、③を多く行っている。

① 学習した文法・語彙の知識を用いた言語活動

「イングリッシュ・シャワー」では、「英語」の授業で学習した文法や語彙をできるだけたくさん聞くと同時にそれらを用いてできるだけたくさん話すことを授業の根幹としている。「英語」の授業でもスピーキング活動はもちろん行うが、教科書とは異なる場面設定をしたり、自分の立場で質問に答えたりする言語活動となるよう、また、外国人教員と実際に英語で話すことで、より現実的で自然なコミュニケーションの場面を設定するようにしている。

学習した文法と語彙の知識を活用し、自分自身に関する事実を1～2文で表現する技能の向上を図るために取り組んでいるのが、英語によるQ&A形式のスピーキング活動である。各学期、残り1か月くらいになる頃、質問と答え方（答えの例）が書かれたリストを配付する。参考資料1は、中学1年生の2学期末に配布したリストで、中学1年生の1学期にすでに配布したリストの質問を復習として残しながら、2学期に学習した文法項目を用いた質問を新たに加えている。同様に、参考資料2は、中学2年生の2学期末に配布したリストで、中学1年生のときから毎学期末に配布してきたリストから4度の更新を経たものである。

授業では、クラスメイトや外国人教員あるいは日本人教員とQ&A活動を繰り返し行いながら、まずは1～2文で表現するために必要な知識の定着を図る。そのうえで、生徒が、リストを見ずに質問を聞き取って答えられるように練習を繰り返しながら、同じ文型で語句のみを変えた質問を少しずつ増やし、自分自身のことを1～2文で表現する基礎的な技能を身につけていく。週1回の「イングリッシュ・シャワー」で3回程度、必要であれば、「英語」の授業での帯活動においても、この学習活動を行ったあと、外国人教員と1対1でやり取りをする機会を与える。このやり取りでのパフォーマンスを、①質問したり答えたりできる（知識・技能）、②理解できなかったりうまく表現できなかったりした場合に対処できる（知識・技能）、③会話の流れに応じて自然なやり取りができる（思考・判断・表現）、の3つの評価規準で評価し、英語でやり取りをするうえで必要な資質・能力の基礎の育成をめざしている。

② 教科書のスピーキング活動を発展させた言語活動

クラスに異なる英語力の生徒が在籍する本校では、一度学習した内容を英語力に応じた学習活動を通して何度も活用しながら、確実に生徒一人一人の技能を向上させていくことが不可欠であると考えている。そのために取り組んでいるのが、教科書のスピーキング活動を発展させた言語活動である。

教科書のスピーキング活動は、パターンプラクティスに近いものが多いが、それらを通して確実に「知識・技能」を指導したあと、「イングリッシュ・シャワー」の授業で発展させることで、「思考力・判断力・表現力」の育成につながる言語活動とすることができる。教科書の活動に理由や補足説明など

を加えて表現する、対話文をモノローグに変える、モノローグをQ&A形式に変える、などのアレンジを加えることで、内容は同じであっても、自ら考え判断し表現する発展的な言語活動となる。このような活動に取り組むうえでは、①で述べた英語での質問を理解したり答えたりできる基礎的な知識と技能が不可欠であり、身に着けた知識・技能がさらに深い内容のコミュニケーションにつながるということを生徒たちに実感させるうえでも、重要な学習活動であると考えている。

③ 教科書の題材を用いた言語活動

「英語」の授業で学習した教科書の題材についても、②で述べた考えのもと、「イングリッシュ・シャワー」の授業で再度、英語のみでインプットし、アウトプット活動につなげている。すでに理解している内容を扱うことで、時間を効率良く使いながら、深い内容のコミュニケーションにつなげることができる。現在は、題材の内容に関するQ&Aやリテリング活動ののちに、自分の考えを述べ合う言語活動を行っているが、今後、特に、アドバンスト・クラスでは題材について調べた内容のプレゼンテーションやそれについての質疑応答などの活動も取り入れながら、「思考力、判断力、表現力」の育成につなげていきたいと考えている。

(2) clarification のための表現の指導

本校中学校では、1年生の4月の時点から、聞き取れなかったり、意味が理解できなかったりした場合や表現したいことがうまく言えない場合に対処する技能として、意味の曖昧さを明確にする clarification のための簡単な表現を指導している。これらを使いこなすことで、コミュニケーションが中断したり終了したりするのを避けることができ、「英語で表現する力」を育成するうえで、不可欠な技能であると考えている。指導は「英語」の授業においても行うが、特に「イングリッシュ・シャワー」においては、clarification のための表現を使用する機会を意図的に設定し、その定着を図っている。表1はそれらの表現の一部で、学年が上がるにつれて、表現をレベルアップしながら指導している。

中学1年生	中学2年生
More slowly, please.	Can you speak more slowly, please?
Once again, please.	Will/Would you say that again, please?
What does ... mean (in Japanese)?	What do you mean by ... ?
What is <u>(日本語)</u> in English? など	What is the word for ...? など

表1 Clarification のために指導している表現の例

(3) ライティング活動との統合

(1)で述べた学習活動のうち、②教科書のスピーキング活動を発展させた言語活動と③教科書の題材を用いた言語活動では、それらとライティング活動を統合して指導している。「イングリッシュ・シャワー」の授業では、知っている語彙を用いてたくさん話すように指導しているため、ある程度の誤りや単語のみで話すことを許容している。そのため、授業で取り組んだ内容をふまえて書く活動を家庭学習として取り組ませることが、正確な語彙や文法を確認する機会となる。アドバンスト・クラスでは、外国人教員と1対1で会話をする際に、外国人教員にできるだけ誤りを recast してもらい、その会話を録

音したものを確認しながら、ライティングの課題に取り組みさせることもある。accuracy（正確さ）と fluency（流暢さ）の両方を高めるうえで、スピーキング活動とライティング活動を統合して指導することは、英語力に関わらず、すべての生徒にとって有効であると考えている。

4. 実践の成果

(1) clarification の技能に関して

現在、本校中学校の1期生は、2年生であるが、外国人教員とは、抵抗なく英語で話すことができている。そうした姿を見ていて、特に成果として感じているのが、3.(2)で述べた clarification のための表現の指導である。わからないときにどのように言えば良いかを知っていること、そして、授業において、そのことを試す機会があり、実際に試した結果、コミュニケーションを続けることができたという経験が、英語で話すことへの抵抗感を少なくしていると考えている。毎学期末に行う外国人教員との1対1でのスピーキングテストにおいては、やりとりの中での曖昧な部分を明確にすることができたかどうかを必ず確認するようにしており、現在では、ほぼ全員の生徒が英語で clarification のための表現を使えるようになってきている。今後も表 I に示した表現をさらにレベルアップさせながら、継続的に指導していくつもりである。

(2) 英語力に関して

本校では、生徒たちの英語力の伸びを把握する目的で、中学1年生より GTEC を受検しており、中学1年生の2月の受検結果は、図1の通りであった。

Reading では Pre-A1 レベルと判定される生徒が多かった。このことは、出題レベルが本校生徒の文法・語彙の知識レベルよりも高かったためであると考えている。GTEC は Core タイプで、中2～中3レベルの設定であるため、検定教科書を使用して学習している本校中学1年生にとっては、学習していない文法や語彙で表現された英文が多く出題されていた。音声での認識はできる語彙であっても、読むことに苦手意識を持つ生徒が多いという実態も影響しての結果となった。Speaking に A1.1 レベルの生徒が多かったことも、音読問題で読めない語彙が多かったことが影響していると考えている。

一方で、Writing は、約70%の生徒が A1.3 レベル以上という判定であった。これは、出題が日本語であり、生徒たちが知っている語彙と文法で表現しようとした結果、誤りがあつたり、解答内容が不十分であつたりしてもその意欲が評価されたためであると考えている。「イングリッシュ・シャワー」で、たくさんの英語を聞いたり話したり

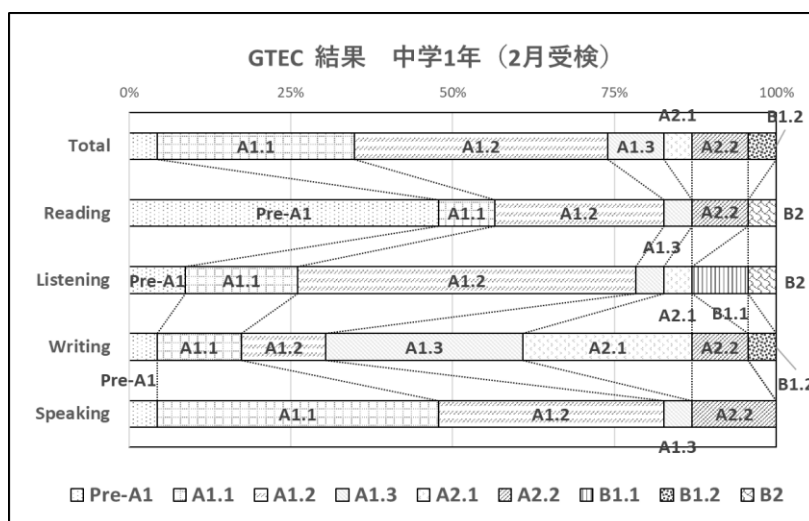


図1 GTEC における技能別判定レベルの内訳 (%)

することを通して、まず音声として英語がインプットされていること、そして、生徒たちが知っている語句や文法を使おうとする意欲を身につけていることの成果であると考えている。

本稿冒頭で述べた通り、中学校3年間で CEFR の A1、つまり GTEC では A1.3 レベル以上にできるだけ多くの生徒を到達させることが本校中学校の目標である。上述の要因等をふまえると、技能別の課題をふまえた今後の指導が重要であることは言うまでもないが、1年生時点での Total スコアとしては、ほぼ順調に英語力が向上していると考えている。

5. 今後の指導に向けて

4(2)でも述べた通り、昨年度からの1年8カ月の実践の成果として感じていることは、生徒たちが、誤りを恐れず知っている語彙でなんとか表現しようとする態度を身につけてくれたことである。英語でコミュニケーションを図ろうとする意欲は、英語力を向上させるうえで重要な要因であり、「国際共通語としての英語力向上のための5つの提言」(文部科学省：2011)の策定においては、「臆せずコミュニケーションを図ろうとする態度」は英語力の一つの側面と考えられている。今後の指導においても、英語力向上のための不可欠な資質・能力として、重視していくつもりである。

一方で、より正確な表現、さらにはより論理的な表現ができるようにする指導が必要であることが今後の課題である。生徒たちがこれらのことをできるようにするためにも、現在取り組んでいる指導を継続するつもりではいる。しかしながら、学習が進み、扱う文法や語彙が増え、題材が難しくなるにつれ、知識の習熟度の差が少しずつ大きくなっていること、また、授業でのスピーキング活動には参加するものの、知識の定着のために必要な反復練習や家庭学習などに対して意欲を低下させている生徒が増えつつあることは否定できず、こうした生徒たちの状況をふまえながら、指導内容を見直す必要性も同時に感じている。

現在、2年目の取り組みを進めている「イングリッシュ・シャワー」は、まだ発展途上である。今後、上述の課題に対して学習活動を工夫し改善をめざすうえでは、生徒一人一人の日々の状況や学習に対する意欲などの情意面にも配慮しながら、まずは、楽しいコミュニケーションであること、そして、成功体験を繰り返し与えること、そのうえで、少しずつ知識を身につけ、技能を向上できる活動であることを常に念頭に置き、取り組んでいくつもりである。

参考文献

文部科学省 (2018) 「第3期教育基本振興計画」 https://www.mext.go.jp/content/1406127_002.pdf

文部科学省 (2019) 「大学入試改革における英語資格・検定試験の活用について (関係資料集)」
https://www.mext.go.jp/content/20191224-mxt_daigakuc02-000003554_12.pdf

文部科学省 (2011) 「国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的施策」

https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afeldfile/2011/07/13/1308401_1.pdf

1. この紙を見なくても答えられる。 3. 答えに+I文加えて答えられる。 2. 質問の順番が変わっても答えられる。 4. の語句が変わっても答えられる。		
1	Are you good at math?	Yes, I am. / No, I'm not.
2	Are you interested in anime?	Yes, I am. / No, I'm not.
3	What's your favorite subject?	My favorite subject is science.
4	What club are you in?	I'm in the tea ceremony club. I'm not a member of any club.
5	When is your birthday?	My birthday is
6	Where do you live?	I live in Himeji.
7	Do you play any musical instruments?	Yes, I do. / No, I don't.
8	What (kind of) music do you like?	I like J-Pop.
9	What do you (usually) do on Sundays?	I (usually) go shopping with my mother.
10	How many brothers and sisters do you have?	I have one brother and two sisters. I don't have any brothers and sisters.
11	Can you run fast?	Yes, I can. / No, I can't.
12	What food can you cook?	I can cook pasta.
13	Does Mr. Eguchi teach Japanese?	Yes, he does. / No, he doesn't.
14	Does your school have a swimming pool?	Yes, it does. / No, it doesn't.
15	Who is your homeroom teacher?	Ms. Kobayashi is my homeroom teacher.

資料1 英語 Q&A練習用リスト (中学1年生2学期)

1	Are you a baseball fan?	Yes, I am. / No, I'm not.
2	Are you interested in anime?	Yes, I am. / No, I'm not.
3	What's your favorite subject?	My favorite subject is
4	When is your birthday?	My birthday is
5	Do you play any sports?	Yes, I do. / No, I don't.
6	What (kind of) music do you like?	I like J-pop / rock.
7	What do you (usually) do on Sundays?	I (usually) read books.
8	How many brothers and sisters do you have?	I have one brother and two sisters. I don't have any brothers and sisters.
9	What time do you (usually) leave home?	I (usually) leave home at 7:15.
10	Can you cook well?	Yes, I can. / No, I can't.
11	What musical instrument can you play?	I can play
12	What are you doing now?	I'm studying English now.
13	What were you doing at 10:00 last night?	I was taking a bath then.
14	Were you busy yesterday?	Yes, I was. / No, I wasn't.
15	Where were you at 2:00 yesterday?	I was at home / in the classroom.
16	Did you do your homework last night?	Yes, I did. / No, I didn't.
17	What did you do after school yesterday?	I talked with my friends.
18	How is the weather today?	It's sunny.
19	How will the weather be tomorrow?	It will be rainy.
20	Are you going to watch TV tonight?	Yes, I am. / No, I'm not.
21	What are you going to do tomorrow?	I'm going to see my friend.
22	Will you watch a movie this weekend?	Yes, I will. / No, I won't.
23	If you can get a present, what do you want?	I want a new pair of shoes.

資料2 英語 Q&A練習用リスト (中学2年生2学期)

Teaching to Develop the Ability to Express Oneself in English

– Effective Teaching in “English Shower” Classes –

Sachie IMAI

This paper reports the practice of fostering “the ability to express oneself in English” at a private school that provides integrated junior and senior high school education. In order to develop the ability, classes called “English shower” are taught once a week, aiming to give the students a large amount of input in English and to elicit output from them. The students learn in small groups with one or two foreign or Japanese teachers. The classes focus on speaking activities that are linked to students’ regular “English Language” classes and provide writing tasks as homework. The activities and tasks are provided depending on the differences in the students’ English proficiency levels.

As a result of implementing these classes, this paper highlights the fact that students have been acquiring the skills to ask for clarification, and developing their attitude to express oneself without being afraid of making mistakes, which are both necessary aspects to foster “the ability to express oneself in English”. In addition, for future practice, it also points out that activities need to be devised based on the situation especially for students who are becoming less motivated in acquiring basic knowledge and skills.